

国際居住年記念事業 令和元年度「国際居住年記念賞」の受賞者について

国際居住年記念賞は、主として開発途上国等における居住環境問題の改善に貢献された団体に対し、1988年の第一回授賞以来、主として海外の団体を中心として授賞してまいりましたが、平成24年度からは国内のNGO等団体へ授賞することといたしました。

居住環境の更なる向上と草の根的国際協力活動の推進と発展に資するため、令和元年度「国際居住年記念賞」は国際居住年記念事業運営委員会（委員長：岡部明子氏東京大学大学院新領域創成科学研究科教授）において、以下の団体が選考され、授与することが決定いたしました。なお、授与式は当協会第72回通常総会(令和2年6月18日)の開催に先立って行う予定でしたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を鑑み、誠に残念ですが、やむなく中止することとなりました。

◎国際居住年記念賞受賞者

特定非営利活動法人上総掘り^{かずき}をつたえる会

受賞者の活動概要は以下のとおりです。

千葉県君津地方で発案完成し、国の重要有形民俗文化財として登録されている、上総掘り^{かずき}の智慧を後世に伝えるとともに、水不足に悩む東南アジアの人々のための国際交流・国際協力に役立てることを目的に1981(S56)年、当時、袖ヶ浦町で町議会議員を務めていた山田吉彦氏が中心となって設立され、以来、永年に亘り、活動されてきています。

フィリピン・バタンガス州の学校に、井戸掘り職人2名を派遣し現地の人々とともに井戸を掘ったのを最初に、以来38年間フィリピンやインドネシアの学校や集落の中心地に井戸建設を続けています。また、「技術の輸出ばかりでは意味がない」と1990(H2)年には、フィリピンから9名の青年を招聘し、3週間の研修を実施、その後もインドネシアへの技術指導、フィリピン・ナショナルハイスクールで井戸掘り技術指導等を行っています。

井戸建設に関する事業はもとより、湧水地から学校まで水道設備を設けることにより、学習環境、衛生環境等居住環境全般の向上に向けて活躍されています。